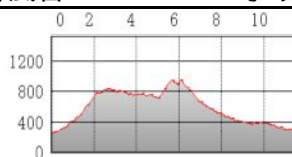


健康登山76:周辺の山34 (鈴鹿 仙ヶ岳)

コース	小岐須駐車場 1.7km/72 稜線道 1.0km/47 野登山 0.5km/13 野登寺 1.1km/27 仙鷄尾根取付 1.4km/62 仙ノ石 0.4km/16 仙ヶ岳 0.5km/15 小社峠 0.9km/26 アライ谷分岐 3.2km/76 屏風岩 1.0km/27 小岐須駐車場
水平距離	11.7km
水平換算距離	
累計高低差	登り1061m、下り1061m
標準歩行時間	6:21
実績歩行時間	7:30

断面図
縦軸: 高度m
横軸: 距離km



山行報告

山行日 2012・5・27(日) 天候 快晴 参加者 8名

山科駅前7:30 小岐須駐車場9:00 野登山稜線10:21 野登山11:20 野登寺(昼食) 11:41~12:15 仙鷄尾根取付12:51 仙ノ石14:30 仙ヶ岳15:03 小社峠15:29 アライ谷分岐16:02 屏風岩17:17 小岐須駐車場17:50 山科駅19:30

記録

東海自然歩道の関・亀山界隈を歩いているときに双耳峰の仙ヶ岳が見え、周辺の山として登ろうと考えていた。今回はその仙ヶ岳と併せて野登山を歩くことにした。

小岐須溪谷山の家駐車場まで山科駅から80km、1時間半で着いた。登山準備をして9:00に出発、小岐須溪谷に架かる橋を渡り、一ノ谷登山道を野登山東尾根を目指して登った。丁寧な道標が随所に設置されていて安心して歩けた。通報ポイント一ノ谷6番が稜線で10:21に着いた。ここから尾根道を西へ進むと国見のひろばという標識のある展望のよい場所に出る。二等三角点(851.6m)のある野登山はすぐ近くだが樹林帯で展望はない。

野登山から稜線を行く道と野登寺へ下る道があり、野登寺へ下り本堂前で昼食をした。食後、仙鷄尾根の取り付け点まで尾根道を行くか林道回りで行くか思案しているときに亀山から登って来られた地元の方のアドバイスで林道を選択した。

仙鷄尾根はアップダウンの多い、ヤセ尾根で注意しながら慎重に歩を進めた。危険なところにはフィックスロープが張ってあるがザレ場ではとくに注意が必要だった。1時間40分かかって東峰の奇岩仙ノ石に着いた。14:44仙ヶ岳に到着、北に宮指路岳、鎌ヶ岳、御在所岳がほぼ一直線に並び壮観だった。かつて下から眺めていた仙ヶ岳に登れて格別の思いがした。

仙ヶ岳から県境尾根を北へ下り、小社峠から東へ向って仙ヶ谷を下った。アライ谷合出で小休止をし、さらに何度か渡渉を繰り返して16:40に小社峠登山口に着いた。ここから先は長い林道歩きである。宮指路岳登山口でもある大石橋を越えてしばらく歩くと屏風岩の案内があった。屏風岩を見て10分ほどでゴールの駐車場に着いた。

巨木に囲まれた野登寺と仙鷄尾根歩きが印象に残る山行だった。

周辺の山 (鈴鹿 仙ヶ岳)



出発地点
小岐須溪谷の橋
9:03

一ノ谷を登る
9:24



野登山三角点
11:22

野登寺本堂
11:42



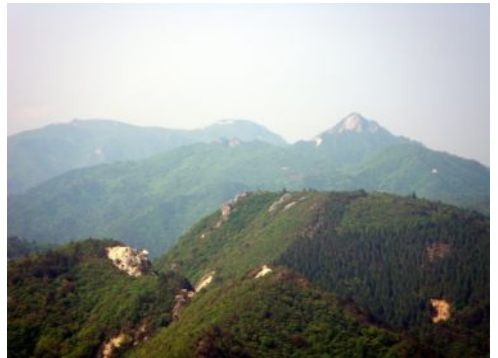
仙鷄尾根取付
12:51

仙ノ石
14:21



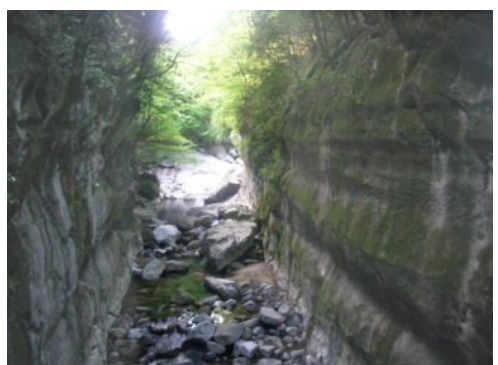
仙ヶ岳にて
14:51

山頂からの展望
手前から宮指路岳
鎌ヶ岳、御在所岳
14:55



仙ヶ谷を下る
16:28

屏風岩
17:17



名所・旧跡ミニガイド（周辺の山：仙ヶ岳）

参考資料 分県登山ガイド他より

仙ヶ岳：仙ヶ岳は鈴鹿山脈のなかで、三重県側の最南部に位置する山である。東西二つの頂きをもち、四方に派生する尾根や谷は、いずれも峻嶮で、南部の主峰にふさわしい堂々とした山容を形成している。山麓には溪谷美で知られる石水溪や鬼ガ牙の岩峰のほか、滋賀県土山町の旧東海道と結ぶ安楽越（峠）などがある。

仙ヶ岳も鈴鹿の山の例にもれず、登路は多い。難度の高いもの、メインコースから分かれるものなどを含めると10近いコースがあげられる。

今回歩いた一の谷・仙鷄尾根や仙ヶ谷コースが一般的だが、山慣れた人なら仙ノ石南尾根の岩尾根や、県境の御所平などは静かな山歩きが楽しめるし、鈴鹿最大の滝を落とす矢原川も沢登りのコースを提供してくれる。

また、麓の小岐須溪谷の石大神や屏風岩も見どころのひとつである。

野登山（ノノボリヤマ）：野登山のもともとの名は鷄足山である。

山頂近くに『曠野ヲ行尽シテ山上ニ登ル、故ニ野登寺（ヤトウジ）ト名ヅク』と記された古刹があることから、寺名がそのまま山名（訓読み）となって一般化したものである。

野登寺の起源は古く、遠く平安時代の初期にさかのぼるが、江戸時代に亀山藩の祈願寺とされたことから地元の信仰を集めたといわれている。現在でも「ののぼりさん」として親しまれているのはそのためであろう。いずれにしろ850mmもの山上に大伽藍が建立された例は、鈴鹿では唯一この野登山だけである。

頂上付近は杉の巨木が立ち並び森閑とした雰囲気漂わせているが、本堂のすぐ上にはNTTの無線中継所が建ち、林道がここまで通じている。小岐須溪谷からも一ノ谷沿いの道がある。

野登山のブナ林（県指定の天然記念物）

野登山山頂付近は、ブナを主体とする落葉広葉樹林の植生をよく残し、西日本太平洋側におけるブナースズタケ群叢である。

ブナ以外の高木層には、モミ、ツガ、コハウチハカエデ、ミズナラ、アカシデ、ホオノキ等があり、亜高木層にはシラキ、リョウブ、ウリハダカエデ、マンサク、クロモジ等が、低木層にはベニドウダン、シロヤシオ、ホツツジ、ホンシャクナゲ等ツツジ科植物のほかタンナサワフタギ、ツクバネウツギ等が見られる。

野登山ブナ林は、西日本における植生の古い様相を示す貴重な例である。